

## さび病（シャクナゲ類）

秋、当年葉の葉表に不鮮明な淡橙色小円斑が多数形成される。翌年夏には、明瞭な橙色斑となり、斑点部の葉裏には、虫の卵の集団のようにみえる半球状、オレンジ色の固まり（冬孢子堆とよばれる菌体）が形成される。のち、この固まりは脱落して褐色の小さなくぼみが残る。病斑部は褐変するが、罹病葉全体が枯死することはない。

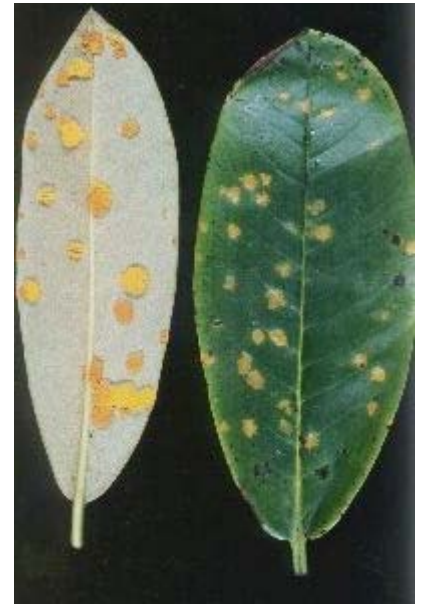
【病原菌】 *Chrysomyxa succinea*

【罹病樹種】 ハクサンシャクナゲ

【発生地域】 十勝，日高

【防除】

アカエゾマツなどトウヒ類の「葉さび病」罹病葉から飛散する孢子（さび孢子）がシャクナゲ類に感染する。このため、トウヒ類の近くにシャクナゲ類を植えないようにする。



ハクサンシャクナゲさび病